

市民と市役所が

# ツナガル通信

発行日：平成 28 年 12 月 26 日

発行元：ESD・市民協働推進センター

岡山市役所本庁舎 2 階（月～金、9:00～17:00）

TEL：086-803-1062/070-5055-7589

## Contents

- >> 若者による持続可能な岡山市のための課題解決ワークショップ報告
- >> 平成 28 年度市民協働推進モデル事業ご紹介



Vo.19

### 若者による持続可能な岡山市のための課題解決ワークショップを開催しました！

課題解決ワークショップ通算 7 回目となる今回は、初めて「若者」を対象として奉還町にあるゲストハウス「KAMP」で開催しました。「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の「就職や起業」「新しい人の流れをつくる」「結婚と子育て」「安全で安心なまちづくり」の 4 つの基本目標に沿った事例が 5 名から発表され、活気ある雰囲気の中で参加した若者 45 人が「住み続けたい」「働き続けたい」と思える岡山市をつくるために何が出来るかを考えました。

NPO 法人タブララサの利根さんは、結婚式で使われたキャンドルを再利用し開催している西川キャンドルナイトについてや、ファジアーノ岡山の試合時のゴミを減らすリユース食器の貸出し等、オシャレでスマートなエコ活動について発表され「気軽に出来そうだから関わりたい」という声がありました。また問屋町のまちづくりをされている小田さんは「地域を盛り上げるためには地域を繋ぐ人が必要で信頼関係と連携が鍵となる」と報告され、「若者がチャレンジできる仕組みを作ってほしい」という意見が出ました。これからの岡山市をつくっていく若者の取組みから協働が生まれ、活動の継続や、更なる発展につながるよう引き続き注目、応援していきたいです。



#### (実施概要)

開催日時・会場	平成 28 年 11 月 18 日（金）18:30～21:30 会場：KAMP（岡山市北区奉還町 3-1-35）	
参加者	45 名（大学生等 16 名、会社員 7 名、NPO 関係 3 名、その他所属 3 名、市職員 3 名、発表者など 13 名）	
登壇者	所属	活動発表内容（基本目標）
藤井 裕也さん	NPO 法人 山村エンタープライズ	岡山市への新しいひとの流れをつくる
利根 弥生さん	NPO 法人 タブララサ	安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する
小田 壘さん	カフェムジカ、カフェキネマ等	岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する
岩田 由佳さん	te.to.te.	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
青江 整一さん	くらしのたね	岡山市への新しいひとの流れをつくる 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する
参加者満足度	87.31 点	
アンケートからの感想の抜粋	<p><b>(良かった点)</b>「岡山市で実際にどのような取り組みをされていて、若者が町にどう関わっているかを具体的に知ることができた」「今の自分に何が出来るかという事を考えることができた。」</p> <p><b>(印象的な言葉)</b>「市・いろいろな立場の人と話し合う重要性」「人のつながりをつくるためのイベント等を行い仕組み化してしまうのが大切」「活動を知ってもらうこと」</p> <p><b>(改善点)</b>「スピーカーと話をする時間がもっとほしい」「とてもためになる話はたくさん聞けたけど何について話し合うのか曖昧だった」</p>	

※ 若者による持続可能な岡山市のための課題解決ワークショップの内容は HP「つながる協働ひろば」の ESD・市民協働推進センターの紹介「センター日誌」をご覧ください。 <http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/7956>

## 平成28年度「市民協働推進モデル事業」のご紹介 Vol.4

岡山市各課と市民（NPO法人、市民活動団体等）が共通の目標達成に向けて、力を合わせて市内の課題解決に取り組む「市民協働推進モデル事業」の平成28年度採択事業の取り組みをご紹介します。

### 『慢性疾病を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援および交流を支援する場「ポケットスペース」』 NPO法人ポケットサポート × 健康づくり課

入院中の子どもが通うことのできる「院内学級」は、すべての病院・施設に設置されているわけではなく退院後は通級することが出来ません。医療制度改革により入院期間が短縮されているため、抗がん剤投与の合間や、手術のための検査待ちの期間など、数週間でも退院し、外来通院しながら過ごすため、復学はできず、院内学級に通うこともできない状況が発生しており、小児慢性疾病の対象となる年齢すべての子どもたちへの学習・復学を含む支援が望まれています。今回のモデル事業では、岡山大学病院の協力を得て、大学生ボランティアによる学習支援の場「ポケットスペース」を開設しました。また東京の大学病院の院内学級で活躍されている副島賢和先生を招いて学習会を開催することで理解を広げたり、支援の場を別の病院にも広げていくための調査を進めたりしています。病気の子どもの将来への希望を持って生活できるようになるための地域・社会づくりを目指しています。

### 協働のすすめ～岡山市職員インタビュー～

健康づくり課 那須潤子さん



#### Q1：協働団体に求める役割や期待することはなんですか？

医療制度改革や医学の進歩により長期に入院する子どもが少なくなり、替わって入退院を繰り返し、病気を抱えたまま社会に出ていく子どもが増えました。このような中、岡山市では、長期療養中の子どもの自立と成長支援のための事業を始めました。しかし、長期療養中の子どもの疾病や置かれている状況が多様なため、ニーズを明確化し、企画・事業化することは簡単ではありません。ポケットサポートは、実践に裏付けされた知識とスキルを持ち、また幼少期に療養生活を体験した方がスタッフとして活躍されているため、子どもの声なき声を丁寧に拾い上げ、受け止めて支援されています。今後も共に支援活動の輪を広げていきたいです。

#### Q2：協働を通じて、どのような成果がうまれていますか？

長期療養中の子どものまわりの大人達、先生、友達など一人ひとりができることがあります。この度、協働を通じて企画した副島賢和先生を招いての学習会は、そのヒントがたくさん盛り込まれていました。ニーズに添った企画を通じて、個人、団体、社会ができることを発信できたことは一つの成果だと思います。

#### Q3：よりよい協働の実践に向けて今後の展望を教えてください。

長期療養中の子どもとその家族が抱えている課題は、一機関で支援できるものではありません。今回、協働事業を実施するにあたり、複数の医療機関や大学等からの支援をいただきました。さらに連携先を広げ深めることにより、継続的に長期療養時の子どもの自立と成長と発達のための環境づくりを目指していきたいと思います。

## お知らせ

### ●平成29年度「市民協働推進モデル事業」の募集を開始しました。

岡山市における社会課題の解決を市民と行政の協働の手法によってすすめるために、協働によってより効果的に課題解決がすすむ事業を公募し、一般行政施策化のモデルとして協働での実施を行います。

募集期間：平成29年2月20日（月）まで

詳細は「つながる協働ひろば」をご覧ください。<http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/2430>